

獣医学学部教育第三者評価基準の 作成について

東京大学 大学院農学生命科学研究科
中山 裕之

獣医学学部教育改革の現況 (2014.9.9)

- ❖ コアカリキュラム(各大学で実施中)
- ❖ 共用試験(2016から実施)と参加型実習(2017から実施)
- ❖ 第三者評価の実施(大学基準協会にて評価基準を作成中、2016または2017から実施予定)
- ❖ 国立大学共同学部／共同学科／共同教育課程
 - 北大・帯広畜大 共同教育課程(2012から実施)
 - 岩手大・農工大 共同学科(2012から実施)
 - 岐阜大・鳥取大 共同学科(2013から実施)
 - 山口大・鹿児島大 共同学部(2012から実施)

獣医学教育の第三者評価（任意評価）

- ❖ 2012年の全国大学獣医学関係代表者協議会にて第三者評価を大学基準協会に依頼することを決定
- ❖ 2013年に大学基準協会に「獣医学教育評価検討委員会」が設置され、評価基準作成が始まった
- ❖ 今回は同委員会における中間まとめ（一次案）

第三者評価基準作成の経緯(1)

2011(平成23)年3月

文部科学省「獣医学教育の改善・充実にに関する調査研究協力者会議」の報告書

モデル・コアカリキュラム、分野別第三者評価、共同学部や共同学科の設置、臨床教育の充実、共用試験の実施

2011(平成23)年9月

文部科学省「獣医学教育の改善・充実にに関する調査研究協力者会議」の提言を受け、全国大学獣医学関係代表者協議会(全国協議会)は「新しい獣医学教育の方向性と獣医学教育者の責務に関する声明」を公表

第三者評価体制について、具体的な検討を進める必要がある。これは獣医学教育を担う、我々自身の問題である。教育の質の確保と学生の質の保証制度を確立し、次世代の有用な人材を育成することは、獣医学教育の責務を負う者の課題であること、この課題を解決するための惜しみない努力を果たすことを声明するものである。

第三者評価基準作成の経緯(2)

2012(平成24)年9月

日本獣医師会の学術・教育・研究委員会においても「獣医学教育の分野別第三者評価の確立」について検討し、第三者評価機関として「大学基準協会」を推薦する旨進言

2012(平成24)年11月9日

全国協議会会長が「大学基準協会」を訪問し、獣医学教育評価の実施を依頼

2013(平成25)年4月17日

「第1回大学基準協会・獣医学教育評価検討委員会」を開催。

2013(平成25)年4月～2014(平成26)年3月

大学基準協会・獣医学評価基準検討委員会が都合5回開催。この間基準案の作成を実務とする「獣医学教育評価検討委員会ワーキング・グループ」も都合5回開催

第三者評価基準作成の経緯(3)

2014(平成26)年3月初め

評価基準案およびその実施に関する事項を、

- 1) 獣医学教育評価検討委員会における検討結果(中間まとめ(第一次案))
- 2) 獣医学教育に関する基準(検討委員会第一次案)
- 3) 獣医学教育評価 自己点検・評価ワークシート(検討委員会第一次案)
- 4) 獣医学教育評価 評価者用ワークシート(検討委員会第一次案)

として取りまとめた

2014(平成26)年5月

全国協議会が設置した「第三者評価に係る検討WG」のとりまとめ
公表

大学基準協会と獣医学教育基準(1)

- 1947年 大学基準協会設立
 - 獣医学教育基準分科会を設置
 - 「獣医学教育に関する基準」制定
- 1953年 「獣医学教育に関する基準」改定
- 1986年 「獣医学教育に関する基準」再改訂
- 1988年 「獣医学に関する大学院基準」制定
- 1996年 「獣医学に関する大学院基準」改定
- 1997年 「獣医学教育に関する基準」を大幅に再改訂
- 2001年 「獣医学に関する大学院基準」再改定

大学基準協会と獣医学教育基準(2)

1947年～1948年：獣医学教育基準分科会

1954年～1957年：獣医学教育研究委員会

1971年～1980年：獣医学教育研究委員会

1974年～1980年：農獣医学部教育研究委員会

1983年～1984年：獣医学教育基準分科会

1983年～1986年：獣医学教育研究委員会

1986年～1990年：獣医系大学院研究委員会

1990年～2002年：獣医学教育研究委員会

検討結果の骨子

- 1) 「獣医学教育**モデル・コア・カリキュラム**」の実施状況を中心に、全国の獣医学教育課程に共通して求められる事項を評価する。
- 2) 各獣医学教育課程の目的に基づき、その**特色を伸長**するために必要な事項も併せて評価するとともに、欧米における獣医学教育の**グローバル・スタンダード**を視野に入れる。
- 3) 認証評価ではなく、獣医学学部教育の**質の向上**を重視した達成度評価基準の考え方を導入する(現状よりもやや高い数値を設定)。
- 4) これまでの評価基準とは異なり、**ワークシートを用いたより簡便な自己点検・評価**および評価者評価の手法(スコアー評価法)を導入する。
- 5) 専任教員数を中心に、大学基準協会の「獣医学教育に関する基準」(平成9年2月28日改定)を踏襲し、欧米の基準と遜色ない数値とする。
- 6) **評価の周期はとりあえず7年**とするが、状況に応じて変更も可能とする。
- 7) 評価料は1回につき**250万円～300万円**とし、大学基準協会正会員校および共同教育を実施している大学に配慮する。

「獣医学教育に関する基準」は
8つの大項目により構成

- 1 使命・目的
- 2 教育内容
- 3 教育方法
- 4 学習成果
- 5 教員・教員組織
- 6 学生の受け入れ
- 7 教育環境
- 8 点検・評価、情報公開

「獣医学教育に関する基準」の各大項目は、
項目ごとに示した「本文」及び「評価の視点」により構成

❖ 各「評価の視点」における判定

➤ 2段階評価

「適」と「不適」

➤ 多段階評価

評価4:十分に要件を満たしている

評価3:概ね要件を満たしている

評価2:問題があるものの、代替手段等により要件を満たしている

評価1:問題があるため、改善を要する「不適」

❖ 総合判定

A:獣医学教育(学士課程)の要件を十分に満たしている

B:獣医学教育(学士課程)の要件を概ね満たしている

C:改善が求められるものの、代替手段等により獣医学教育(学士課程)の要件を満たしている

D:獣医学教育(学士課程)の要件を満たしておらず、早急に改善が必要と認められる。

本文

1) 教育課程

(1) 教育課程の編成

獣医学の教育課程の編成にあたっては、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に従い、獣医学の各分野に関する基本的な知識を偏りなく修得させなければならない。獣医学教育組織は教員を適正に配置し、獣医学教育（学士課程）の目的の範囲内で自律的に教育を行う。【視点2-3】 【視点2-4】 【視点2-5】 【視点2-7】

(2) 授業科目

獣医学の専門授業科目は、獣医学の各分野について最小限必要な知識・技術を偏りなく修得させる基本授業科目（コア科目）と、大学の特徴を活かし独自に設定する専修授業科目（アドバンス科目）からなる。（注2）アドバンス科目に関しては、各獣医学教育組織の目的に基づいた特色あるものであることが望まれる。（注3）

獣医学教育組織は、すべての授業科目ごとにシラバスを作成し、学生が学習目的や内容等をあらかじめ把握できるようにするとともに、教員も全科目の教授内容等を共有できるようにする。【視点2-1】 【視点2-2】 【視点2-6】 【視点2-7】

【評価の視点2-1】モデル・コア・カリキュラムに対応したカリキュラムであること。（2段階評価）

【評価の視点2-2】モデル・コア・カリキュラムの実習内容が概ね実施されていること。（2段階評価）

【評価の視点2-3】専任教員がコア科目の実施にあたり適正に配置されていること。（多段階評価）

評価の視点

自己点検・評価ワークシート

チャートやダイアグラムのことである。教員と学生の双方が、図式化されたカリキュラムを共有することで教育過程全体の俯瞰が可能になる。

【注5】共用試験は、参加型臨床実習に参加するための習熟度を審査するための全国統一試験である。主に知識を評価する客観試験CBEと、実技を通して主に技能・態度を評価する客観的臨床能力試験OSCEの2種類の試験より成る。

専門授業科目

【評価の視点 3-1】専門授業科目が体系的に配置され、適正に実施されていることを示すカリキュラムマップが整備されていること。(2段階評価)

【評価の視点 3-2】講義と関連の実習が連動して実施されていること。(2段階評価)

【評価の視点 3-3】適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていること。(多段階評価)

【評価の視点 3-4】講義科目のシラバスに、モデル・コア・カリキュラムの一般目標が全て明記されていること。(2段階評価)

【検証 3-1】シラバスに記載されているカリキュラムマップを下記に貼り付けてください(別紙：カリキュラムマップ例)。資料として添付しても構いません。カリキュラムマップについて、科目配置の体系的性、連続性等を中心に説明を記入してください。

別添付

カリキュラムマップの説明

(評価の目安：各科目の年次進行と連動性が明示されたカリキュラムマップがシラバス上に整備されていること)

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	適正なカリキュラムマップが整備されている	適
	適正なカリキュラムマップがない	不適

【検証 3-2】講義と関連の実習の開講時期をお書きください。

実習名	開講	関連講義名	開講
○○学実習	2年後期	○○学	2年後期

××学実習	3年前期	○△学 ××学	2年後期 3年後期
-------	------	------------	--------------

(評価の目安：実習の開講と同時あるいは前に関連の講義科目が組まれていること)

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	関連講義と同時あるいは後に実習が組まれている	適
	実習の後に、関連講義が組まれている	不適

【検証 3-3】各実習担当の教員、TA（ティーチング・アシスタント）についての情報をお書きください。

実習科目名	評点*	受講者数**	教員数	TA数	TA氏名(大学院学年)
解剖学実習	10	30	2	2	大学一郎 (D2) 大学花子 (D3)

*評点＝受講者数／〔教員数＋1/2 (TA数)〕 (小数点以下第2位・四捨五入)

**受講生数：申請前年度の当該実習における受講生数

(評価の目安：適正な人数の教員及び補助者の監督指導の下で実習が実施されていること)

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定

自己評価	評価内容	判定

評価者用ワークシート

を共有することで教育過程全体の俯瞰が可能になる。

(注5) 共用試験は、参加型臨床実習に参加するための習熟度を審査するための全国统一試験である。主に知識を評価する客観試験C B Tと、実技を通して主に技能・態度を評価する客観的臨床能力試験O S C Eの2種類の試験より成る。

専門授業科目

【評価の視点3-1】 専門授業科目が体系的に配置され、適正に実施されていることを示すカリキュラムマップが整備されていること。(2段階評価)

【評価の視点3-2】 講義と関連の実習が連動して実施されていること。(2段階評価)

【評価の視点3-3】 適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていること。(多段階評価)

【評価の視点3-4】 講義科目のシラバスに、モデル・コア・カリキュラムの一般目標が全て明記されていること。(2段階評価)

評価の視点	自己評価結果		評価結果		自己評価と第三者評価判定が一致しない理由 書面再評価の理由(質問内容、コメント等)
	適・不適	評点	適・不適・ 評点・保留	書面 再評価	
3-1					
3-2					
3-3					
3-4					

≪評価者記述欄≫

簡単な評価概要

総合判定

*総合判定表

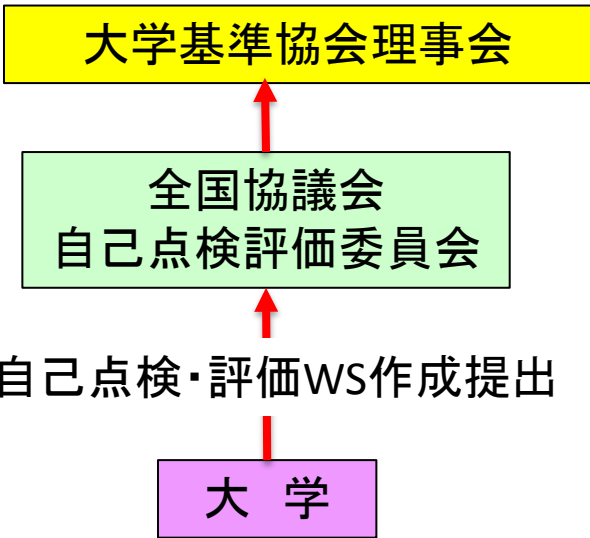
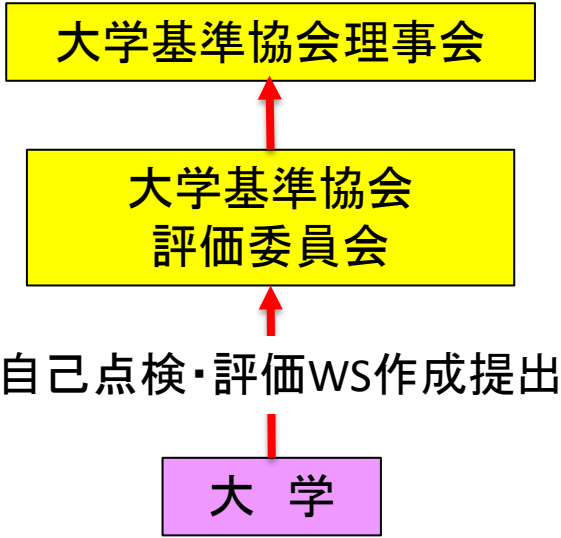
番号

60点未満を「C」とする。ただし、180

点以上であっても、個別の評価で2がある場合、総合評価は「B」となる。

全国協議会が設置した「第三者評価に係る検討WG」の取りまとめ案

「大学基準協会獣医学教育評価検討委員会」の評価基準案は評価できる

	全国協議会WG案	大学基準協会案
周期	7年周期(評価は2年で実施、8大学一斉に行う)	基本的に1大学7年周期
評価料	約65万円/回	250万円～ 300万円/回
評価の組織・体制	 <pre> graph BT U[大学] -- 自己点検・評価WS作成提出 --> NAC[全国協議会 自己点検評価委員会] NAC --> UBA[大学基準協会理事会] </pre>	 <pre> graph BT U[大学] -- 自己点検・評価WS作成提出 --> UBAE[大学基準協会 評価委員会] UBAE --> UBA[大学基準協会理事会] </pre>

他分野の教育評価

❖ 医学分野

- 自己点検評価による内部質保証 → 自己点検評価の検証 (評価委員) → 外部評価(評価委員) フィードバック → 各医学部で改善策
- WFME(世界医学教育連盟)国際基準に準拠した日本版基準に従って各医学部が自己点検評価
- 日本医学教育認証評議会(JACME)委員を中心に、約6名の評価委員が医学部を視察調査

❖ 歯学分野

- 歯学教育認証評価項目を作成中

❖ 薬学分野

- 一般社団法人薬学教育評価機構を設立(2008年12月)
- 本評価2013年に開始
- 適合認定

海外の獣医学教育評価

アメリカなど American Veterinary Medical Association (AVMA)

- ◆ 認証評価
- ◆ 57大学
- ◆ 11大項目(組織、財政、設備資産、臨床用資源、図書と情報資源、学生、入学選考、教員、カリキュラム、研究、成果の査定)

ヨーロッパ European Association of establishments of Veterinary Education (EAEVE)

- ◆ 1985年設立 89大学
- ◆ 13大項目(目標、機構、財源、カリキュラム、教育の質、施設と設備、動物教材、図書館と学習リソース、教員とサポートスタッフ、卒後教育、大学院教育、研究)

韓国 Accreditation Board for Veterinary Education in Korea (ABOVE-K)

- ◆ 2010年設立、2012年に評価開始、10大学
- ◆ 5大項目(機関と経理、カリキュラム、学生、教員、教育施設と教育資源)
- ◆ 韓国獣医大学協議会、韓国獣医師会が設立を了解、サポート

ま と め

- ❖ 我国における獣医学学部教育第三者評価の準備状況について報告した。
- ❖ 評価基準の特徴は以下の通りである。
 - 1) 「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」の実施状況を中心に、共通して求められる事項を評価する。
 - 2) 各大学の特色を伸長するために必要な事項も併せて評価する。
欧米における獣医学教育のグローバル・スタンダードを視野に入れる。
 - 3) 認証評価ではなく、質の向上を重視する。
 - 4) ワークシートを用いたより簡便な自己点検・評価および評価者評価
 - 5) 専任教員数は欧米の基準と遜色ない数値とする。
 - 6) 評価の周期はとりあえず7年とする。
 - 7) 評価料は1回につき250万円～300万円とし、大学基準協会正会員校および共同教育を実施している大学に配慮する。